



津川絵理子（つがわ えりこ）「南風」なんふう
昭和四十三年兵庫県生れ。鷺谷七菜子、山上樹実雄に師事。句集に『和音』（第三十回俳人協会新人賞、第五十三回角川俳句賞）『はじまりの樹』（第一回星野立子賞、第四回田中裕明賞）『夜の水平線』（第六十一回俳人協会賞）『津川絵理子作品集Ⅰ』。

墨 痕 に 漆 黒 の 核 夏 終 る



鴉田 智哉（ときた ともや）「オルガン」同人
昭和四十四年千葉県生れ。「魚座」「雲」を経て現在に至る。句集『こゑふたつ』（俳人協会新人賞）『凧と円柱』（田中裕明賞）『エレメンツ』。

ゆくほどに夏へ塗り込められてゆく



坊城 俊樹（ほうじょう としき）「花鳥」主宰、「ホトトギス」同人
 昭和三十二年東京都生れ。祖父・高濱年尾、母・坊城中子のもとで俳句を始める。曾祖父は高濱虚子。日本伝統俳句協合理事。句集に『零』『あめふらし』『日月星辰』『坊城俊樹句集』『壹』。著書に『切り捨て御免』『丑三つの厨のバナナ曲るなり』『空飛ぶ俳句教室』などがある。

邯鄲の我を近くににして遙か



堀本 裕樹（ほりもと ゆうき）「蒼海」主宰
 昭和四十九年和歌山県生れ。第二回北斗賞、第三十六回俳人協会新人賞、第十一回日本詩歌句随筆評論大賞受賞。俳人協会幹事。著書に句集『熊野曼陀羅』『一粟』。又吉直樹との共著『芸人と俳人』、『俳句の図書室』、『散歩が楽しくなる俳句手帳』。

火焰土器よりつぎつぎと揚羽かな

全作品の名前を伏せて、全選者にそれぞれ特選・秀作・佳作を選んでいただきました